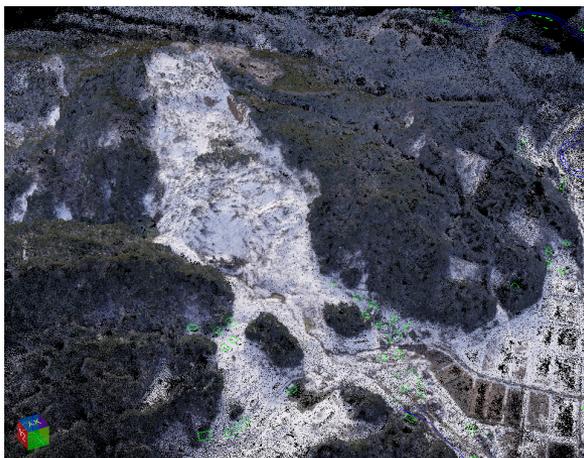
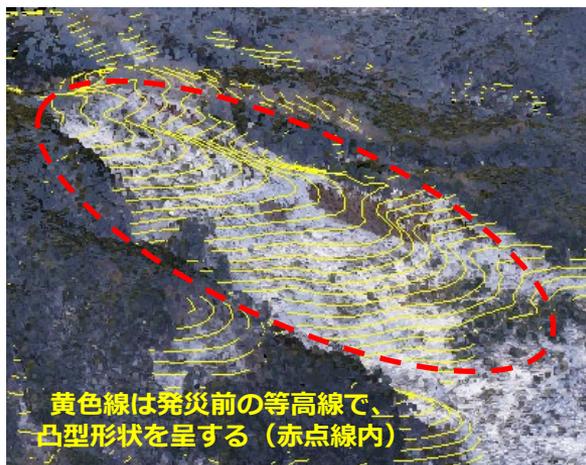


# 令和6年能登半島地震における土砂災害への技術支援

○国総研土砂災害研究部及び土木研究所土砂管理研究グループは、北陸地整及び石川県への支援として1月中旬～下旬にかけて、輪島市市ノ瀬町等の河道閉塞及び地すべりについて、現地調査やヘリコプター調査の結果に加えて3次元モデル（BIM/CIMモデル）による「バーチャル被災現場」を活用し、今後の二次災害防止に向けたソフト・ハード対策に関する技術支援を行いました。



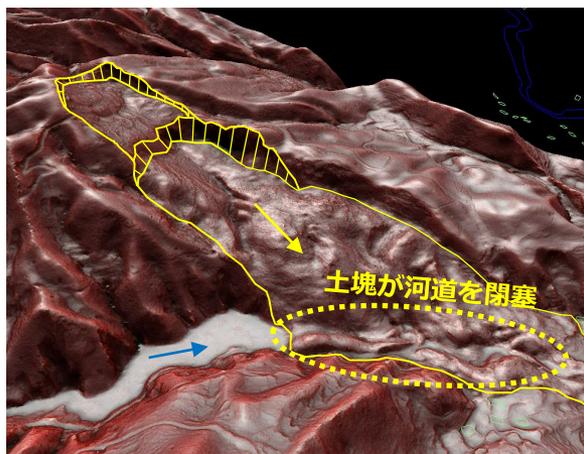
市ノ瀬町の地すべり・河道閉塞



発災前の斜面は揺れやすい凸型形状  
(発災前の等高線は国土地理院データから作成)



地すべりを起こしやすい流れ盤の地層



土塊による河道の閉塞状況  
(赤色立体地図は北陸地整提供)



河道閉塞部のバーチャル被災現場  
(北陸地整TEC-FORCE撮影のUAV画像から作成)



バーチャル被災現場を活用した説明  
(1月13日石川県庁)